

船舶事故等調査報告書

平成22年7月29日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010那第17号	
事故等種類	衝突（岸壁）	
発生日時	平成22年2月8日 14時30分ごろ	
発生場所	沖縄県伊是名村仲田港内 仲田港東防波堤灯台から真方位259°520m付近 （概位 北緯26°55.4′ 東経127°57.0′）	
事故等調査の経過	平成22年4月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 引船 明祥丸、19トン 293-27354 沖縄、株式会社内間土建 B 台船 第7内間、1,500トン 株式会社内間土建	
乗組員等に関する情報	A 船長、一級小型船舶操縦士・特殊船舶操縦士・特定 B なし	
死傷者等	なし	
損傷	A なし B 左舷船首外板凹損、ランプウェイの滑車脱落	
事故等の経過	A船は、船長ほか作業員1人が乗り、浚渫物約300トンを積載したB船をえい航し、仲田港の岸壁にB船を船首着けで接岸させる作業中、B船に船尾両舷から錨鎖を繰り出させ、自船はB船の右舷側に待機していたところ、B船が、船尾からの風とうねりにより岸壁に圧流され、平成22年2月8日14時30分ごろ、B船の左舷船首外板が岸壁に衝突した。	
気象・海象	気象：天気 晴、風向 南東、風力 4 海象：波高 約1.5m	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり A船は、仲田港においてB船の右舷側に待機してB船の着岸作業中、B船の船尾から両舷の錨鎖を繰り出し、岸壁に接近する際、風及びうねりの影響を考慮してB船の行きあしを調整しなかった可能性があると考えられる。
原因	本事故は、A船が仲田港内において、B船の右舷側に待機してB船の着岸作業中、B船の船尾から両舷の錨鎖を繰り出して岸壁に接近する際、B船の行きあしを調整しなかったため、風及びうねりの影響を受け、B船の左舷船首部が前方の岸壁に衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。	